



Title	俳句
Author(s)	澤, 北斗
Citation	懷徳. 1938, 16, p. 52-53
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89011
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

俳句

○

白團扇あふぐか夜道人の肌
 明易く沙の白さや海濱邊
 水満ちて青田夜空や家の壁
 灯火も遠目にそれと夏の月

○

蔓草の伸び極まりぬはたゝ神
 忙しさ忘れてゐたる扇かな
 夏柳空は秋なる風が吹く
 七夕の夜を讃へるや白木槿

夏四句

蛇捕人の紺の手甲や夏の山

白井文溪

山田平歩

澤北斗

蝸^で牛^もの其まゝ竹の落葉かな
移りゆく青田の中の夕日かな
星一つ飛ぶ見ゆ旅の端居かな

水上生活

古谷みつる

水飯に何處かマストの灯がひかる
船揺れて夏潮漁夫をぬらしたる
ゆかた着て漁夫の妻の若ければ
船底に午睡の覺めて潮の音

○

藤塚紅果

平野家を出る微醺や春の宵
若草におのづからなる小徑かな
船は今朝の浦ゆく月今宵

(圓山)